

ヒグマによる人身事故発生状況

2019年3例目

項 目	内 容	
概 要	カムイエクウチカウシ山 八の沢カールの幕営地から登頂しようとしていたところ、クマと遭遇し、頭や肩に咬傷、胸から腹、足の付け根、膝下に裂傷を負った（命に別状なし）。	
発 生 日 時	令和元年7月29日 午前3時35分頃	
発生場所及び付近状況	住 所	河西郡中札内村 カムイエクウチカウシ山頂付近
	付近の状況	稜線のハイマツ林
被 害 者 情 報	居住市町村	札幌市在住
	年齢・性別 被害の状況	47才・男性 重傷【頭部、左側頭部、左側肩峰から背部肩甲骨に咬傷 左胸郭から腹部、左鼠径部、左下腿部に裂傷】
	鳴り物の携帯	有
発 生 状 況	被害者の行動	登山目的の単独行動
	発生時間帯等	早朝（午前3時35分頃） 稜線付近はガス
加害個体の特徴	行動形態	単独個体（オス 体長100～150cm）
	痕跡	—
	逃避行動等	被害者に突撃、引っ掻き、噛みついた後、逃走
対 応 状 況	加害個体への対応	本来のヒグマの生息地であること、険しい山中で熟練した登山者でなければ立入が困難な場所であり駆除が実質上不可能であることから、対応なし。
	住民への対応	麓の山小屋等にて注意喚起〔登山の自粛〕
考 察	発生要因	<ul style="list-style-type: none"> ・単独行動であったこと。 ・日の出前の薄暗い時の行動であったこと。
	対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒグマの生息地においては、複数で行動する。 ・ヒグマが活動する夜間や早朝・薄暮時は行動せず、明るくなってから行動する。
そ の 他	本件が発生する18日前（7月11日）に、ほぼ同じ場所で、ヒグマによる人身事故が発生	

ヒグマによる人身事故発生状況

2019年2例目

項 目	内 容	
概 要	カムイエクウチカウシ山 八の沢カールの幕営地から登頂しようとしていたところ、クマと遭遇し、右腕に裂傷を負った（命に別状なし）。	
発 生 日 時	令和元年7月11日 午前4時40分頃	
発生場所及び付近状況	住 所	河西郡中札内村 カムイエクウチカウシ山頂付近
	付近の状況	森林限界上のハイマツ、風衝草本群落。ハイマツの高さは1m程度。カール上部の緩斜面をトラバースする踏み跡上で見通しは良い。
被 害 者 情 報	居住市町村	兵庫県神戸市在住
	年齢・性別 被害の状況	65才・男性 軽傷【右腕の裂傷】
	鳴り物の携帯	有
発 生 状 況	被害者の行動	登山目的の単独行動
	発生時間帯等	早朝（午前4時40分頃） 快晴、無風
加害個体の特徴	行動形態	単独個体（オス 体長 150cm 程度）
	痕跡	—
	逃避行動等	被害者に接触後、逃走
対 応 状 況	加害個体への対応	本来のヒグマの生息地であること、険しい山中で熟練した登山者でなければ立入が困難な場所であり駆除が実質上不可能であることから、対応なし。
	住民への対応	麓の山小屋等にて注意喚起
考 察	発生要因	<ul style="list-style-type: none"> ・単独行動であったこと。 ・笛を携帯していたが、事故当日は吹いていなかった。
	対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒグマ生息地においては、複数で行動し、笛を吹くなど音を出してヒグマに人間の存在を気づかせる。
そ の 他	本件が発生した18日後（7月29日）に、ほぼ同じ場所で、ヒグマによる人身事故が発生	

ヒグマによる人身事故発生状況

2019年1例目

項 目	内 容	
概 要	新人ハンター育成研修に使う狩り場を下見していたところ、クマと遭遇し、顔や両腕に裂傷を負った（命に別状なし）。	
発 生 日 時	平成31年4月16日 午後0時45分頃	
発生場所及び付近状況	住 所	斜里郡斜里町峰浜
	付近の状況	発生場所は、農道から50mほど林内へ入った見通しの良い針広混交林の2次林。林床は残雪に覆われていた状態。
被害者情報	居住市町村	斜里町在住
	年齢・性別 被害の状況	74才・男性 軽傷【前頭部、下唇、両前腕の挫創】
	鳴り物の携帯	無
発 生 状 況	被害者の行動	クマの足跡を追跡しながら、新人ハンターを育成する狩り場を下見していた（単独行動）。
	発生時間帯等	日中（午後0時45分頃） 晴れ、微風
加害個体の特徴	行動形態	単独個体（オス 推定2歳 実測体重25kg）
	痕跡	既に捕獲済みであるが、農道脇から林内へと足跡があった。
	逃避行動等	被害者自ら銃により捕獲
対 応 状 況	加害個体への対応	加害個体が捕獲されたため、対応なし。
	住民への対応	斜里署において近隣住民への注意喚起を実施
考 察	発生要因	<ul style="list-style-type: none"> ・単独行動であったこと。 ・周囲の警戒が不十分であったことや付近の採石場の騒音の影響で至近距離での遭遇を避けられなかったこと。 ・ヒグマに発砲・命中した後、死亡確認の判断を誤ったこと。
	対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒグマの捕獲（事前調査を含める）にあたっては、複数の従事者で出動 ・ヒグマ生息地における行動時は、周囲を十分に警戒 ・絶命を確認するまでは攻撃される危険性を想定し対応
そ の 他		